

本プログラムについて

世界経済の統合が進行する中、複雑な経済問題を正しく理解し、それを現実の政策に適切に落とし込んでいく能力の養成が、極めて重要となってきている。自ら考え、戦略的に政策を構築し、責任感を持って政策を決定・遂行できる政治指導者や政策決定者の育成は、喫緊の課題である。特に今日のアジアの新興国・発展途上国の指導者には、短期的には予想外のショックへの迅速な対応、中期的には有効な経済運営、長期的には適切な開発戦略を遂行するための意志決定能力を備えることが求められている。これらの課題に答えていくには、経済学を中心とする確固たる学術的訓練と強力な政策策定能力が不可欠である。

これらの要請に応えるため、アジア開発銀行研究所（ADB）と慶應義塾大学経済学研究科は、経済学に基づく斬新なエグゼクティブ訓練プログラムを設置する。定評ある政府系シンクタンクと高名な研究大学である ADB と慶應が立ち上げるこのプログラムは、アジア新興国・発展途上国の財務省・中央銀行等の高級官僚やビジネス・リーダーのみを対象とし、1週間の集中プログラムの形で開設する。プログラムは、世界経済のグローバル化に伴って必要となる経済学と分析手法を学ぶことに注力したものとする。全ての課程を完了した参加者には、アジア開発銀行研究所（ADB）と慶應義塾大学経済学研究科の公式の修了証を授与する。

第1回の今年度は、グローバル化する世界経済において求められる現代のマクロ経済政策をテーマとし、(i) 金融政策、(ii) 財政政策、(iii) 為替政策、(iv) 金融部門の規制・育成、(v) 実物経済における経済統合との連結について学んでいく。そこでは、活発な経済活動と不確実性の増大を伴う世界金融危機後の現代経済に対応する経済理論・実証研究の枠組みを習得する。各国は、国の開放度を高めることを恐れるのではなく、グローバル化の動きに適切に対応しつつ、持続的経済成長を実現し、発展段階の梯子を登っていかねばならない。

本プログラムは、オリエンテーション、講義、授業内ディスカッション、フィールド・トリップ、個別・グループ研究、プレゼンテーションによって構成される。使用言語は英語である。

※ 当日のスケジュールは英語サイトプログラムをご参照下さい。

(<http://www.econ.keio.ac.jp/en/news/detail.php?eid=00071>)